開館 30 周年記念　特別展
限らない世界 ／ 村上三郎
Unlimited World ／ Murakami Saburo

会　　期 ― 2021 年 12 月 4 日（土）－2022 年 2 月 6 日（日）

休 館 日 ― 月曜日（ただし 1 月 10 日は開館、1 月 11 日は休館）、年末年始（12 月 28 日－1 月 4 日）

開館時間 ― 10:00－17:00（入館は 16:30 まで）

会　　場 ― 芦屋市立美術博物館

観 覧 料 ― 一般 800(640)円、大高生 500(400)円、中学生以下無料

同時開催「昔のくらし」展の観覧料含む

※ 無料観覧日：2022 年 1 月 15 日（土）〔関西文化の日プラス〕

※（　）内は 20 名以上の団体料金

※ 高齢者（65 歳以上）および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護者の方は各当日料金の半額になります。

主　　催 ― 芦屋市立美術博物館

後　　援 ― 兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK 神戸放送局、Kiss FM KOBE

展覧会概要

具体美術協会（「具体」）の中心メンバーとして知られる村上三郎（1925-1996）は、1955 年の第 1 回具体美術展で、ハトロン紙を体当たりで突き破る作品、通称〈紙破り〉を発表。以降、この〈紙破り〉は村上の代名詞ともいえる作品となりました。50 年代から 60 年代にかけては、パフォーマンス的要素をもつ作品とあわせ、強烈なストロークで描かれた大型のタブローなどを発表し、平面作品での表現を追求していきます。「具体」解散後は、村上独自のパフォーマンス的要素を持つ作品を発表しました。

村上が紹介される時、「具体」の会員としての一面で語られることが多い中、1996 年に当館で開催した村上三郎展では、「具体」という枠組みを解体し、一作家、一人の人間としての「村上三郎」の世界に迫りました。

本年は、この歴史を画する村上三郎展から、そして村上三郎の旅立ちから 25 年を迎えました。この記録すべき年に、再び村上三郎展を開催いたします。

村上は、1949 年より伊藤継郎に師事し新制作協会で発表を続けます。同会展で人物画や風景画を出品するなか、次第に抽象表現へと移行していきました。それは、同会の若手作家たちが集った「ジャン会」や新鋭な美術を目指した若手作家グループ「０会」での活動によるところが大きく、「具体」入会前夜の活動を知ることは、村上の「絵画」に対する思考を再確認することになると考えます。また、50 年頃から終生携わることになった児童を対象とした美術教育の活動を振り返ることは、常に自由で新鮮な創造行為を続けてきた村上の発想の源泉に触れることにもなるでしょう。

本展では、「具体」の代表作や 70 年代の個展とともに、これまで紹介されることが少なかった新制作協会時代の作品を展観します。あわせて、〈紙破り〉の資料展示とともに、未発表であった作品制作のためのメモや関係資料、記録写真や映像資料などを加え、約 50 年にわたる活動を多角的に紹介します。

本展は、村上三郎を形作る別の根幹に触れながら、新たな村上三郎像を立ち上がらせる試みです。

展覧会構成

本展では、村上三郎の約 50 年にわたる活動を **4 章**に分け、多角的に紹介します。
展示予定**作品約 50 点、資料約 100 点**を一堂に展観。

Ⅰ：出発 ／ 新制作協会 1943―1954

村上三郎は、1943 年に関西学院大学予科に入学、絵画部「弦月会」に入部すると共に、神原浩に師事、油絵を始めました。48 年に同大学文学部哲学科（旧制）を卒業した翌年、新制作協会会員であった伊藤継郎に師事します。その間の 51 年に関西学院大学大学院で美学を専攻しました。村上は 1955 年に具体美術協会会員となるまで、新制作協会展で発表を続けました。同会展で人物画や風景画などの出品を続ける中、次第に抽象表現へと移行していきます。

第 1 章では、新制作協会で発表を続けていた時代の作品を展覧し、村上三郎の「絵画」を探ります。

1. 村上三郎　《河小屋》　1952 年　油彩、カンヴァス
芦屋市立美術博物館蔵

2. 村上三郎　《作品》　1953 年
油彩、カンヴァス　大阪中之島美術館蔵

Ⅱ：探究・追求／具体美術協会 1955―1972

1955 年、村上は具体美術協会（「具体」）の会員となり、第 1 回具体美術展でハトロン紙を体当たりで突き破る作品、通称〈紙破り〉を発表しました。一方、1957 年 4 月の第 3 回、同年 10 月の第 4 回具体美術展に、時間の経過に伴う画面の状態変化が作品化した《作品》、通称〈剥落する絵画〉を出品。時間が経つにつれて塗料が剥がれ落ちていく本作は、時間経過とその状況が絵画を構成する要素となっています。50 年代後半から 60 年代にかけては、強烈なストロークで描かれた大型のタブローなどを発表、平面作品での表現を追求していきました。

第 2 章では、「絵画」「行為」「時間」に注目しながら、「具体」における村上三郎の活動を追っていきます。

3. 村上三郎　《空》　1956／1993 年　ブリキ、布、木、鉄　個人蔵

5. 村上三郎　《作品》　1958 年　合成樹脂塗料、カンヴァス　芦屋市立美術博物館蔵

4. 村上三郎　《作品》　1957 年　ミクストメディア、板　芦屋市立美術博物館蔵

6. 村上三郎　《作品》　1959 年
合成樹脂塗料、カンヴァス、
コラージュ　　個人蔵

7. 村上三郎　《作品》　1963 年　合成樹脂塗料、石膏、
接着剤、綿布、板　兵庫県立美術館蔵

Ⅲ：回帰 ／ 個展 1971―1977

会期中一言も言葉を発せず過ごす個展〔無言〕、来廊した人が芳名録に署名を書くとすかさずペンで消してしまう個展〈自同律の不快〉など、ルールを設けた村上の行為と観客の言動によって、その場で生まれ続ける関係と、変化していく表現が「展覧会」となる、村上独自のパフォーマンス的要素をもつ作品を発表しました。

第 3 章では、70 年代の一連の個展に際して村上が残したメモやノート、記録写真といった関係資料から、村上の「作品」に対する思考を探ります。

8. 村上三郎「箱」個展　1971 年　撮影：夏谷英雄
＊記録写真

9. 村上三郎個展〔拍子木〕　1973 年
撮影：夏谷英雄　＊記録写真

10. 村上三郎展「自同律の不快」芳名帳 1977 年
国立国際美術館蔵　撮影：福永一夫

Ⅳ：絵は自由 ／ 美術教育 1950―1995,　芦屋市展 1952―1994

村上は、1950 年より小学校や中学校・高校の絵画講師として勤務する一方、豊中や伊丹、西宮、大阪などの幼稚園で絵画教室を開き、児童画教育に終生携わるようになります。子どもたちとの関わりは、教えるのではなく、一緒に絵の楽しさと想像の力を見つけていく、心を潤す時間だったでしょう。

一方、1952 年から 94 年まで毎年出品していた芦屋市展は、新しい表現への実験的な場として存在しつつ、心弾ませる場所でもありました。70 年以降の芦屋市展では、展覧会の出品規定に明示された壁面サイズを紐で縁取った《出品規定・大きさ》（第 27 回／1974 年）や、物の上から紙を押し当て物の存在をあらわにした《押し繪》（第 47 回／1994 年）など、村上独自の機知に富んだ軽妙さを持つ作品を出品しました。

第 4 章では、常に自由で新鮮な想像行為を続けて来た、村上の豊かな発想の源泉に触れていきます。

11.　仁川幼稚園 1985 年　撮影：塩野真孝

12. 第 25 回芦屋市展ポスター　1972 年
個人蔵　デザイン：村上三郎
＊中央部分が四角くくりぬかれ、背後が
ポスターの一部に切り取られるデザイン。

※コーナー名等は、都合により変更する可能性があります。

本展のみどころ

1　国内の美術館では初公開の作品を多数展示予定。

本展では、《自画像》（1950 前半）や村上彦（三郎）・白髪一雄二人展出品作である《危険なる均衡》（1954）といった、「具体」参加以前の作品のほか、第 9 回具体美術展に出品されてから所在不明であった《作品》（1960）、モチーフが大きく変化した 1964 年の具体美術新作展出品作《作品》（1964）〔すべて個人蔵〕など、当時の発表以降、国内の美術館では初の展示となる作品を一挙公開します。

また、1956 年 7 月の野外具体美術展（芦屋公園）に出品した《空》（1956／1993）を屋外で展示し、当時の鑑賞方法を再現します（鑑賞体験は日時限定を予定）。

2　未公開の作品制作メモや関係資料、記録写真・動画などの資料を展示します。

村上三郎が残した作品制作に関するメモや当時の手帳、記録写真といった未公開の資料のほか、**新制作協会**や**ジャン会**、**0 会**、**具体美術協会**、**個展（1970 年代）**、などの関係資料を展示します。あわせて、村上の代名詞とも言われる、通称**〈紙破り〉の関係資料（写真・映像記録等）**を展示し、村上三郎が歩んだ時間を可視化します。

3　専門家による講演会、スライドトークを開催します。

本展関連事業として、具体美術協会など戦後美術を研究している**平井章一氏（関西大学文学部 教授）**、1996 年に芦屋市立美術博物館で開催した村上三郎展を企画した**山本淳夫氏（横尾忠則現代美術館 館長補佐兼学芸課長）**、村上三郎作品の修復を手掛けた**横田雅人氏（修復家）**の 3 名をお招きし、「村上三郎」の作品論・芸術論などについてお話いただきます。

併せて、会期中に学芸員によるワークショップやギャラリーツアーを開催します。

作家紹介

村上三郎 Murakami Saburo
1925-1996

神戸市に生まれる。1943 年関西学院大学予科に入学。神原浩に師事、油絵を始める。1948 年関西学院大学文学部哲学科卒業。1949 年伊藤継郎に師事、翌年より新制作協会展に出品を続ける。1951 年関西学院大学大学院で美学を専攻。1951 年より新制作協会で活躍していた西村元三朗や網谷義郎、白髪一雄らと集まった「ジャン会」、1954 年には新鋭な美術家を目指した金山明や白髪ら若手研究グループ「0 会」へ参加。その間の 1952 年の第 5 回芦屋市展に初出品、以降 1994 年の第 47 回展まで出品を続けた。1955 年具体美術協会（「具体」）に参加、同年の第 1 回具体美術展でハトロン紙を体当たりで突き破る作品、通称〈紙破り〉を発表。1957 年の第 6 回関西総合美術展洋画部門で木箱《作品（坐って下さい）》を出品し物議をかもす。また、同年の第 3 回具体美術展では、画面が剥落し続ける絵画を出品した。50 年代から 60 年代にかけては、パフォーマンス的要素を持つ作品とあわせ、強烈なストロークで描かれた大型のタブローなどを発表し、平面作品での表現を追求した。「具体」解散後は、会期中一言も発しない〔無言〕に代表される、能動的な表現を放棄したかのような作品群を発表した。

当館では、新制作協会に出品していた時代の作品から、具体美術協会で活躍していた時期、解散以降の作品 12 点（組）を所蔵している。

展覧会関連イベント

（1）講演会「〈紙破り〉の過去・現在・未来」
講　師：平井章一（関西大学文学部 教授）
日　時：2021 年 12 月 12 日（日）14:00-15:30
会　場：芦屋市立美術博物館 講義室
定　員：60 名（予定）
申し込み不要、直接会場へお越しください。

（2）講演会「存在に理由はない― 村上三郎の芸術について」
講　師：山本淳夫（横尾忠則現代美術館 館長補佐兼学芸課長）
日　時：2022 年 1 月 10 日（月・祝）14:00-15:30
会　場：芦屋市立美術博物館 講義室
定　員：60 名（予定）
申し込み不要、直接会場へお越しください。

（3）スライドトーク「村上三郎の絵画から見えてきたこと―修復家の視点」
講　師：横田雅人（修復家）
日　時：2022 年 1 月 23 日（日）　14:00-15:30
会　場：芦屋市立美術博物館 講義室
定　員：60 名（予定）
申し込み不要、直接会場へお越しください。

（4）学芸員によるワークショップ「絵具をつかって考えよう―村上三郎の絵画」
日　時：2021 年 12 月 19 日（日）13:30－15:00
会　場：芦屋市立美術博物館 体験学習室
対　象：小学生以上　20 名
要事前申込。12 月 10 日（金）締切。
申込方法：氏名・住所・電話番号を電話（0797-38-5432）か E メール（ashiya-bihaku@shopro.co.jp）にてお伝えください。
応募者多数の場合は抽選。

（5）学芸員によるギャラリートーク
日　時：2021 年 12 月 18 日（土）、2022 年 1 月 15 日（土）、29 日（土）
いずれも 14:00－　1 時間程度
申し込み不要、直接会場へお越しください。

※いずれも参加費は無料（要観覧券）
※新型コロナウイルス感染症の状況により、イベント内容の変更または中止となる場合がございます。詳細は事前に当館ホームページ、新型コロナウイルス感染症対策(芦屋市立美術博物館利用ガイドライン)」をご確認ください。

[お問い合わせ]
芦屋市立美術博物館
〒659-0052　兵庫県芦屋市伊勢町 12-25　FAX：0797-38-5434
企画内容に関して／担当学芸員　大槻晃実　TEL：0797-23-2666（学芸直通）
画像貸出等、広報について／総務課　乾紀子 TEL：0797-38-5432（代表）
◇ホームページ：https://ashiya-museum.jp
◇Facebook：芦屋市立美術博物館
◇Twitter：@ashiyabihaku

[アクセス]
徒歩　阪神電車芦屋駅から南東へ約 15 分
阪急バス「新浜町」または「芦屋市総合公園前」行き(31・32・35・36・131 系統)乗車、
「緑町(美術博物館前)」停留所下車、徒歩 2 分
（バスのりば）
阪神電車芦屋駅 南側 2 番のりば　／　阪急電鉄芦屋川駅 南側 5 番のりば
JR 神戸線芦屋駅 北側 5 番のりば
併設駐車場
当館をご利用の方は 1 時間無料。館内受付で駐車券をご提示ください。30 分 100 円（8:00-20:00）